

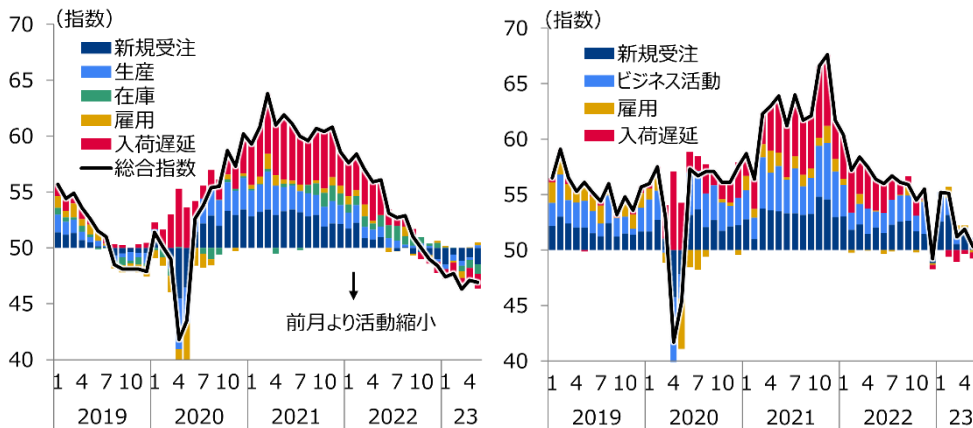
米国

ISM景況指数（2023年5月）

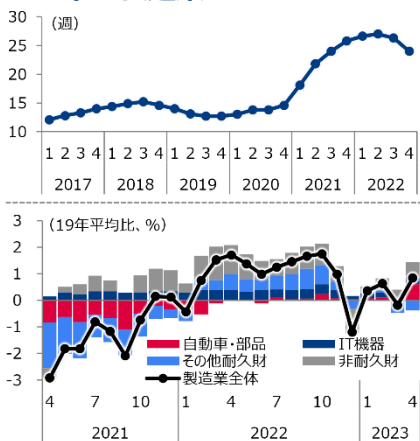
半導体不足緩和とドル高一服で、企業活動の底割れは回避へ

政策・経済センター
浅井優汰
03-6858-2717

1 ISM景況指数（左：製造業、右：非製造業）

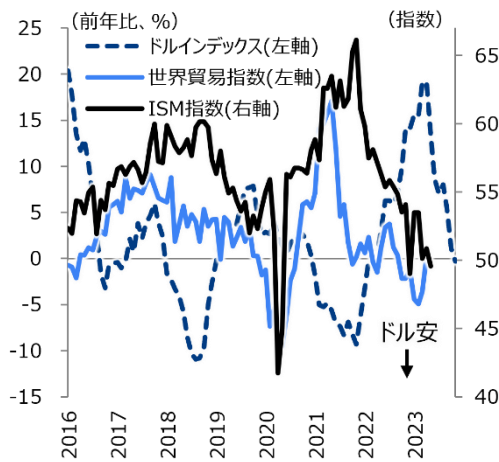


注：調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。
出所：Institute for Supply Management®より三菱総合研究所作成

2 上：半導体のリードタイム
下：製造業生産

出所：Susquehanna Financial Group、FRBより三菱総合研究所作成

3 為替相場・世界貿易とISM指数



注：ドルインデックスは6か月先行させた値。ISM指数は製造業・非製造業指数をGDPに占める比率で合成し、算出。
出所：Institute for Supply Management®、CRB、ISLより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 23年5月のISM製造業景況指数は46.9と、前月から小幅低下し、経済活動の拡大・縮小の境目である50を7カ月連続で下回った。非製造業は50.3と、5カ月連続で50を上回ったものの、19年平均（55.5）を下回る低水準で推移しており、均してみれば低下傾向にある（図表1）。
- 製造業の項目別では、新規受注が42.6と8カ月連続で50を下回っており、需要は鈍化している。サブ項目の仕入れ価格は44.2と前月から大幅に減少し、インフレ圧力が弱まりつつあることが示された。
- 非製造業の項目別では、景気減速懸念から新規受注（52.9）が低下したほか、企業の活動現況を示すビジネス活動（51.5）も低下した。一方、サブ項目の新規輸出受注は59.0と高水準で推移、サービス輸出の堅調さが示された。

基調判断と今後の流れ

- 米国の企業活動は鈍化している。既往の金融引き締めやドル高で製造業の活動は縮小を続けている。また、堅調なサービス消費に支えられ底堅く推移してきた非製造業も、金融・不動産などの一部セクターで需要鈍化が続いている。
- 先行きは、金融引き締め継続による借入コストの高止まりや信用状況のタイト化、在庫調整などが押し下げ要因となり、23年後半にかけて製造業を中心に50を下回る水準が続くとみる。ただ、半導体不足の緩和、ドル高の一服などから活動の過度な落ち込みは回避され、24年入り後以降、徐々に回復するだろう。
- 半導体不足の緩和に関して、半導体のリードタイム（発注から納品までにかかる時間）は22年4-6月期をピークに縮小を続けており、供給不足改善が期待される（図表2・上）。実際、半導体不足で生産抑制が続いていた自動車生産の回復（図表2・下■）によって、製造業生産の底入れの動きがみられる。半導体不足で抑制された自動車販売台数は累計で約800万台と推計され、ローン金利高止まりの中でも、自動車需要の回復が活動を下支えすると期待される。
- 加えて、主に大企業の収益を逼迫させてきたドル高の一服や、世界経済に持ち直し兆しがみられ、年後半の企業活動の下支え要因となるだろう（図表3）。